

Title	運用会議報告 大阪大学大型計算機センターニュース No.9
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1973, 9, p. 28-30
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65179
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第24回全国共同利用大型計算機センター運用会議議事要旨

日時 昭和47年10月5日(木) 10:00~16:00

場所 大阪大学大型計算機センター大会議室

議事

I. 報告事項

各センターの現況について、夫々報告があった。

II. 審議事項

審議事項

1. センター間の協議について(継続)

センター間の連絡、協議に関する小委員会がまとめた諸会議、研究会の性格、運営等について前回に引続き検討した結果、基本点について了承されたが、これについての成文化の文章のまとめが必要であり、そのための細部について小委員会で検討整理し、次回に確認を得ることになった。

2. 東京大学大型計算機センター新システムの利用負担金について(継続)

東大小野教授から、本件についてご意見を伺って検討してゆきたい旨の発言があり、(1)バッチ処理、(2)リモートバッチ処理、(3)T S S処理、(4)グラフィックシステム利用の4項目に分類した別紙資料に基づき、その経過ならびに問題点等について詳細な説明があった。これについて質疑応答があり、継続討議することとなった。

3. センター間のプログラム開発に関する調整について(継続)

プログラムライブラリー研究会の幹事校である名大の近藤助教授から別紙のとおり現状調査の結果報告があり、つづいて種々意見の交換がなされた。システムの異なった場合の考え方、そのほか若干の問題点はあるが、開発しようとするプログラムについては、名大の別紙調査リストに照らすことによって調整できること、また開発したもの、開発中のものはセンター間の情報交換を行なうなど、今後しばらくは意見交換あるいは情報交換をしてゆくという方向で処理することについて了承された。

4. 計算依頼にかかる利用者の郵送費をセンターが負担することについて(事務協議会提出)

事務協議会に提案した東北大から提案理由の説明があり、種々協議した結果、受取人払いの

問題、負担金体系の問題等があつて適切合法的な方策は考えられなかった。しかし、遠隔地のために不便しているユーザーや小規模なユーザーの便宜、利益をはかろうとする考え方に全般的な意見の一致をみたので、これについて次回で検討することになった。

5. その他

- (1) 島内東大センター長から、共同利用掛の設置等3項目からなる要望書は文部省に提出し、説明した旨報告があつた。
- (2) 日本学術会議情報科学小委委員会の田中委員長から学術会議で計算機に関する将来計画として、(一)計算機学術利用の具体策、(二)学術情報体制について討議した旨の報告があり、これに関連した活潑な意見の交換がなされた。

第25回全国共同利用大型計算機センター運用会議議事要旨

日時 昭和47年12月15日(金) 10:00~16:00

場所 九州大学大型計算機センター会議室

議 事

1. 報告事項

各センターの現況について、それぞれ報告があつた。

2. 審議事項

1) センター間の協議について(継続)

センター間協議体制小委員会がまとめた、全国共同利用大型計算機センター間の協議に関する申合せ(案)について、検討の結果、種々意見の開陳があり、字句の一部を訂正した後、提出された原案を確認した。なお、運用会議については、開催頻度を漸減していくが、現在開催予定の東大(3月)、名大(6月)まではそのまま、以後より当分の間4カ月間隔で開催することが了承された。おつて研究会開催についても意見が出された。

2) 東京大学大型計算機センター新システムの利用負担金について(継続)

東京大学から、新システムの利用負担金については、前回資料を若干修正したものを運営委員会に提出したが、負担金の積算方法については各センターとも基本的には統一されるべきであるという文部省、会計検査院等の意向もあるので、各センターの状況及びこれらの意向も考慮した上で決定すべきであるという意見が出されたので、基本的な考え方をまとめるため、負

担金料金小委員会に付託し、その結論で各センターの状況を見合せた上で、改めて審議願いたいとの提案があり、これを了承。よって、新システムの利用負担金については、負担金料金小委員会に委ねることになった。

3) 計算機の学術利用の将来計画について

日本学術会議情報科学小委員会委員長の田中教授から、情報科学小委員会で認められた計算機学術利用計画に基づき、

- イ. 通信線による計算機学術利用の充実
- ロ. 学内共同利用センターの充実
- ハ. 利用者の多い大学の学内利用センターの充実
- ニ. 大型計算機センターの充実

以上4項目からなる勧告文とする骨子について説明があった。

この提案について、意見の交換の後、文案の表現等に関する意見は、直接委員である北大・田中教授、東大・小野教授、阪大・高木教授に連絡することになった。

4) 計算機依頼にかかる郵送費をセンターが負担することについて(継続)

前回でユーザーの便宜、利益をはかる考え方に全般的意見の一致を見たので、このことについてそれぞれ各センターで検討されたが、良案が見出せないため、この問題については地区協でも連絡所会議等に諮った上で必要に応じ運用会議に提案することに決定した。よって、この議題の審議は、打ち切りとした。

5) 利用負担金の改正について

九州大学から、昭和48年4月1日から実施する利用負担金の改正案が提案され、承認された。

6) 課題承認申請書の様式変更について

京都大学から、昭和48年4月1日から実施予定の、(イ)課題承認申請書、(ロ)課題の共同研究者承認申請書、(ハ)卒業研究のための利用承認申請書、(ニ)課題の研究補助者承認申請書の各様式について説明があり、了承された。

7) その他

- (1) 大阪大学より利用申請書の様式変更について提案があり、承認された。